

平成24年度文部科学省委託事業「体験活動推進プロジェクト」  
**自然体験活動指導者養成事業 補助指導者養成研修会**  
～親子で体験活動にチャレンジ～

参加者は、親子での体験活動に挑戦したことにより、その楽しさを実感するとともにその意義を理解することができた。そして、補助指導者として子どもの体験活動を支援する立場で活動しようとする意志を強くもった。

## 1. 事業実施までの経緯

今日子どもたちが豊かな心をはぐくみ、生きる力を身につけるために、青少年に対する体験活動の重要性が高まっている。平成19年に、教育再生会議の「社会総がかりで教育再生を－第二次報告書－」において「小学校で1週間の集団宿泊体験や自然体験・農林漁業体験の実施」が報告され、また、「経済財政改革の基本方針2007」においても「小学校で1週間の自然体験の実施」が提言された。さらに、平成20年1月の中央教育審議会答申において、「体験活動は、学期中や長期休業期間中に一定期間（例えば1週間（5日間）程度）にわたって行うことにより、一層意義が深まるとともに、高い教育効果が得られる」と示され、平成20年3月に公示された新しい学習指導要領においても「体験活動の充実」が盛り込まれている。これらを受けて文部科学省は、「青少年体験活動総合プラン」で、指導者養成とプログラム開発に取り組んでいる。国立青少年教育振興機構の27施設をはじめとする指導者養成研修実施機関等では、文部科学省が制定した「指導者養成カリキュラム」に基づいた養成研修を実施しており、修了した方々を小学校等に紹介することとしている。今後より一層、学校教育現場に“体験活動の充実”と“長期にわたる体験活動の実践”が求められることから、各小学校で長期自然体験活動を実践する場合に必要な指導者の育成を目的とし、教員・社会教育関係者及び自然体験活動に興味・関心のある方を参加対象として、今回の養成研修会を実施することとなった。

今年度で5回目となる自然体験活動指導者養成研修会を当施設でも平成20年度から毎年2回ずつ実施している。平成21年度まではカヌーや野外炊飯、炭焼き等、当所で普段行われている体験活動のプログラムを活用することで指導者を養成してきた。しかし、参加者は青少年教育関係者や大学生が中心であり、新しい参加者層を開拓していくことが課題となっていた。そこで、平成22年度から、例年参加者が多い親子事業からヒントを得て、3年生以上の小学生の保護者（親子同伴）を対象に補助指導者養成研修会を実施し、募集人数を超える参加者を確保できている。

今年度も、過去2年間の参加状況から子どもの体験活動を支援する意志のある保護者が多いと判断し、昨年度同様の対象者に補助指導者養成研修会を2回実施することにした。また、昨年度の反省を踏まえ、運営方法の工夫に重点を置き、事業を企画した。

## 2. ねらい

「小学校長期自然体験活動」において実施される教育効果の高い自然体験・生活体験活動の補助指導者養成をする。

※ さまざまな体験活動を経験することにより、その楽しさを実感するとともに、子ど

もとのふれあいや参加者相互のふれあいを通して、豊かな心を育む、「親子で体験活動にチャレンジ」を兼ねる。

**3. 主催** 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立大洲青少年交流の家

**4. 後援** 愛媛県教育委員会、愛媛県PTA連合会

**5. 期日** 1回目 平成24年10月6日(土)～10月7日(日)  
2回目 平成24年10月20日(土)～10月21日(日)

**6. 場所** 国立大洲青少年交流の家

**7. 参加人数** 1回目 保護者26名・小学生27名 合計53名  
2回目 保護者28名・小学生28名 合計56名  
(募集：3年生以上の小学生の保護者(親子同伴)各回25組)

**8. 講師** 荒木俊夫氏(武蔵野市教育委員会教育部指導課教育アドバイザー)  
松井康之氏(大洲市立河辺中学校校長)  
宇和島山岳会  
大洲市カヌー協会  
国立大洲青少年交流の家担当職員

**9. 日程**

		9:00	9:30	10:30	12:00	13:30	17:20	19:00	20:00	21:00	22:30	
<b>1日目</b> 10/6 (土)	受付	開講式 施設説明 本事業の説明 アイスブレイク	大人	講義「学校教育における体験活動の意義」	昼食	実技指導「カヌー(安全管理)」	親子でカヌー	夕食	星空観察	交流会 役割分担	入浴	就寝
			子ども	なかまづくりゲーム	休憩	カヌー体験		休憩				
<b>2日目</b> 10/7 (日)	起床	朝のつどい 朝食準備 退所点検	大人	講義「教育課程と体験活動の関連性」	野外炊飯(媛ポークの丼物)	実技指導「クライミング(安全管理)」	親子でクライミング	閉講式				
			子ども	アウトドアッキングのひみつ					クライミング機			

※体験活動は、安全管理を含む。

## 10. 活動内容

### 【1日目】

#### 「開講式・施設説明・本事業の説明」

最初に主催者である国立大洲青少年交流の家所長が挨拶を行った。その中で今回の事業が「小学校長期自然体験活動」において実施される教育効果の高い自然体験・生活体験活動の補助指導者を養成する目的で実施しているとの説明があった。（2回目は、国立大洲青少年交流の家次長が挨拶を行った。）



その後、国立大洲青少年交流の家職員による施設・本事業の説明があった。

#### 講義「学校教育における体験活動の意義」【保護者】

##### 武蔵野市教育委員会教育指導課教育アドバイザー 荒木俊夫氏

学校教育における体験活動の必要性や意義、その指導者としてのかかわり方を、武蔵野市の長期宿泊体験活動（セカンドスクール）における実践をもとに、保護者を対象とした講義を行った。その中で、荒木氏は今の子どもたちは自然体験や様々な生活体験が不足していると指摘した。そして、武蔵野市の長期宿泊体験活動取材したテレビ番組を上映し、現在までの経緯や指導体制、実施場所、農山村での子どもたちの活動の様子や心情の変化、セカンドスクールにおける成果等についての説明があった。また、指導者の子どもへのかかわり方やセカンドスクール等での補助指導者の役割、その必要性について話された。

#### 「なかまづくりゲーム」【子ども】 国立大洲青少年交流の家職員

保護者が講義を受講している間、子どもたちは、初めて出会う仲間たちと距離を縮めることを目的に「なかまづくりゲーム」を行った。最初は緊張した表情で動きも硬く、ぎこちない様子だったが、少しずつ緊張もほぐれていった。ゲーム終了後は、子どもたちが自主的に遊ぶ姿が見られるようになり、その関係を深める良い機会となった。



#### 実技指導「カヌー（安全管理）」 大洲市カヌー協会

午後からは、国立大洲青少年交流の家の代表的なプログラムであるカヌーを体験した。大洲市カヌー協会の講師による指導のもと、カヌーについての基本的な操作方法や基礎知識についての説明があった。実際に乗艇方法について学んだ後、親子でカヌーに挑戦した。今回初めてカヌーに挑戦する参加者は、思いがけない方向へカヌーが進むなど苦戦をしていたが、講師の適切なアドバイスもあり、次第に上達していった。その後、保護者は安全管理の一環として、沈脱から再乗艇までの方法やスローバックやペットボトルなどの用具を使っての救助方法を学んだ。



昨年度の改善点を生かし保護者が救助方法等を学ぶ時間は、子どもたちを対象に上流へのミニツアーリングを実施した。子どもの活動時間を十分に確保した結果、子どもが満

足できるプログラムとなっただけでなく、保護者も講習に集中できるようになった。

全体を通して、保護者は危険を伴うプログラムであるカヌーを実際に指導する立場から、カヌーの特性を理解し真剣に講習に取り組み、その技術を向上させることができた。また、水辺の活動での安全管理について理解を深め、身近な物を使った救助技術を身につけた。



### 「星空観察」大洲市立河辺中学校校長 松井 康之氏

夜は、松井康之氏による星空観察を実施した。松井氏には、月や四季折々の星座の魅力について分かりやすく、興味を引くような内容で講義をしていただいた。特に、身近な月や天の川に話が及んだ際には、子どもたちからの大きな反応があった。また、夏の大三角やはくちょう座のアルビレオなどの解説もあった。1回目は、あいにくの天候となり予定していた屋外での観察はできなかったが、室内で



パソコンを使用したプレゼンテーション形式で講義を行った。保護者は実際に、望遠鏡の使い方等を学ぶことはできなかったが、資料提示の方法や話し方等を学ぶことができた。2回目は天候にも恵まれ、実際に望遠鏡を使って月やアルビレオ、星団の観察を行った。保護者は、このプログラムを通して、簡単な望遠鏡の使い方や星空観察の指導法について学ぶことができた。

### 「交流会」 国立大洲青少年交流の家職員

1日目の最終プログラムとして全体での交流会を行った。子どもたちは、開講式の「アイスブレイク」や「なかまづくりゲーム」において互いの距離を縮めることができていたが、参加者同士の交流を深めるために、保護者も交えて夜に交流会をもつようにした。前半は、国立大洲青少年交流の家の職員が中心となってグループワークゲームを行った。参加者は協力しながら交流を深めることができていた。また、後半は、翌日行われる野外炊飯の役割分担等について班ごとに話し合った。



### 【2日目】

#### 「教育課程と体験活動の関連性」【保護者】 荒木俊夫氏

前日に引き続き荒木氏が行われた武蔵野市の長期宿泊体験活動を例に、教育課程に体験活動を組み込む方法等についての講義を行った。保護者は、学習指導要領における体験活動の位置づけを十分に理解できた様子であった。質疑応答の時間では、参加者から「県内で長期宿泊体験活





動を推進するにはどうすればよいか」、「補助指導者として参加できる活動にはどのようなものがあるのか」など、様々な質問があった。

### 「アウトドアクッキングのひみつ」【子ども】 国立大洲青少年交流の家職員

子どもたちは、保護者が講義を受けている間に野外炊飯についての準備や野外炊飯のこつ、安全に関する学習を行った。まず、国立大洲青少年交流の家職員が施設内の野外炊飯場周辺に潜む危険に関する話をした。そして、参加者が、実際の危険箇所や起こりうる事象について話し合った。その結果、野外炊飯を実施する上での危険について意識をしながら準備を行っていた。

野外炊飯の準備終了後、火おこしや片付けに関するこつを伝え、実践につなげた。



### 「野外炊飯（媛ポークの丼物）」 国立大洲青少年交流の家職員

愛媛県特産の媛ポークを材料とした「媛ポークの丼物作り」を行った。親子や班で協力して1つのものを作り上げることの大切さを学ぶことを目的として、このプログラムを設定した。野外炊飯場で4～6人の班になり、食材係、火を起こす係、米を研ぐ係、材料を切る係、食器を準備する係等に別れて、班同士での連携をうまくとりながら活動することができた。子どもたちも慣れない包丁を使うことや、火おこしにチャレンジしたりするなど、積極的に活動ができていた。また、子どもたちは事前に野外炊飯について学習ができており、保護者にも教える姿が見られた。保護者も指導者という立場から、口や手を出しすぎないように意識しながら、的確なアドバイスができていた。事前に設定していた「協力する」という目的を達成できたプログラムであった。



クライミングの時間が短かったという昨年度の反省から、野外炊飯を先に実施し、説明の時間を短くするために、研修ノートやプリントの配布、拡大した掲示物の活用等の工夫を行った。その結果、30分ほど時間を短縮し、その時間をクライミングの時間へと使うことができた。

### （実技指導）「クライミング（安全管理）」 宇和島山岳会

宇和島山岳会の講師の指導のもと、クライミングや安全管理についての基礎知識を高め、登り方等の技術を学んだ。保護者は、安全管理に関する講義を受講し、子どもはクライミング体験を行った。その後、保護者も子どもたちと一緒にクライミング体験をし、安全管理指導やトップロープの確保の仕方等を学んだ。実際にクライミング体験をすることを通して、子どもたちのつまずきや危険に気付き、的確な指示や支援ができていた。

昨年度の反省からも、クライミング体験の時間の確保が挙げられていたので、全体的な開始時間を早めることで改善することができた。また、8 mのコースを2つ増やし5つのルートにすることで、参加者が各コースに分散し、より多くの活動時間を確保することができた。

保護者は、危険を伴うプログラムであるクライミングを実際に指導する立場から、クライミングの特性を理解し、真剣に講習に取り組み、その技術の向上をさせ、安全管理面からも理解を深めることができた。



### 「閉講式」

主催者である国立大洲青少年交流の家次長が挨拶を行った。その後、自然体験活動の補助指導者として登録される保護者に「修了証」が手渡された。1泊2日のプログラムを終え、修了証を手にした保護者は、これから自然体験活動にかかわる者としての自覚を持つことができた様子であった。



## 11. 参加者の声

参加者のアンケートの結果

### 【大人】

(1回目)

\*満足：76.9% \*やや満足：23.1% \*やや不満：0.0% \*不満：0.0%

(2回目)

\*満足：85.7% \*やや満足：14.3% \*やや不満：0.0% \*不満：0.0%

○親子で参加できるところが特によかった。

○1泊2日のカリキュラムだったが、多くのことを体験することができた。

○もう1泊あってもよい。楽しく研修を受けることができた。

○意義が良く理解できた。

○講義と実習でうまく運営し、大人子どもで別プログラムはいい運営と感じました。

○大変満足できる内容だった。セカンドスクールが愛媛でも実施されることを望む。

○子どもたちにもっといろいろやらせようと思った。「安全は自分で作り守るもの」考えさせられた。

○学校では、実際、体験活動の場では人手不足である。このような研修会は大変ありがたい。

### 【子ども】

(1回目)

\*満足：85.2% \*やや満足：14.8% \*やや不満：0.0% \*不満：0.0%

(2回目)

\*満足：85.7% \*やや満足：14.3% \*やや不満：0.0% \*不満：0.0%

○大変なところもあった（カヌー運びなど）が、協力してがんばれた。

○自然の大切さにも気づけたし、友達とのかかわりもよかった。

○ふだんできない体験ができて良かった。

○自分ができなかったことができるようになった。

○チームワークが大事、できなくてもチャレンジする。

## 12. 成果と課題

### 【成果1】補助指導者として、多くの登録者ができたこと

今年度も、小学校3年生から6年生までの親子を対象に募集を行い、募集人数を超える109名の参加があった。そのうち、保護者53名を補助指導者として登録することができた。参加者の声には、「親子で活動する場も設けてもらいながら、補助指導者の講習を受けられることがよかった。」という声が多かった。

### 【成果2】多くの参加者に満足度の高い研修にすることができ、体験活動の魅力を伝えることができたこと

前年度からの反省事項をいかし、体験活動の時間を充実させることで、満足度が高まったと考えられる。また、親子で体験活動に取り組む場を設定することで、多くの方に参加していただくことができた。また、講師の講義や体験活動を通して、子どもたちの健全な成長に体験活動がとても重要であることを伝えることができた。

### 【課題】補助指導者の活用について

昨年度に引き続き補助指導者として多くの保護者の登録があった。しかし、当施設の自然体験に関する事業等での活用ができていないことが課題に挙げられる。今後は、子どもの体験活動を支援する意志のある保護者が、指導者として活躍する場を提供できるよう考えていかなければならない。

今日の情報化社会において、インターネットで情報を得る人が多い現状から、様々な施設やNPO団体、自治体等のイベントを紹介するウェブサイトを立ち上げ、そのイベントの詳細にどのような補助指導者を求めているか等の情報も掲載し、登録者へ情報を提供する方法が考えられる。